



## 第 1873 回例会

平成 28 年 5 月 9 日 (月)

18:30～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘
2. 国歌斉唱 「君が代」
3. ロータリーソング 「奉仕の理想」
4. ゲスト紹介 米山記念奨学生 郎 彦昆 君
5. 出席報告  
会員総数 48 名 出席者数 26 名  
出席率 54.17 % 前回修正出席率 66.67 %

### 6. 会長スピーチ 会長 阪口 洋一 君

みなさま、今晚は。足元の悪い中ご出席いただき有難うございます。

本日のお客様は米山記念奨学生の郎君です。郎君は昨年度に続き今年度も奨学生として当クラブでお世話させて頂きますので、皆様よろしくお願いいたします。

地区から、ガバナーのミニー確定宣言のメールが届いております。

ガバナーのミニー候補者推薦について、2016年3月22日に地区内各クラブに通知し、4月25日に決め切りました。期日までに1クラブより推薦がありました。クラブから推薦された候補者が1名のみの場合は投票しないものとし、その候補者がガバナーのミニーとして公表されるものとします。以上から、和歌山ロータリークラブ 横畠直尚(かしほた なおひさ)氏を国際ロータリー第2640地区2018～2019年度ガバナー候補者とすることを確定いたしましたのでここに宣言いたします。

2016年4月26日 2640地区ガバナー 辻秀和

本日は、少し時間をいただいて、ロータリーの110年の歴史を約15分の映像で振り返ってみたいと思います。1905年2月23日ポール・ハリスとその友



人がシカゴの事務所で会合を行ったのがロータリーの始まりであることは皆さんご存知のとおりです。最初の奉仕プロジェクトはシカゴの街に公衆トイレを設置したことです。その他、興味あることが見ることができますのでよろしくお願ひします。

### 7. 幹事報告 幹事 横出 廣 君

○例会臨時変更のお知らせ

那智勝浦RC 5月12日(木) → 5月12日(木)

12:30～職場見学 食縁工場  
新宮市佐野 黒潮公園

海南西RC 5月12日(木) → 5月14日(土)

19:00～ 「銀座すし」  
次年度クラブ協議会

和歌山西RC 5月18日(水) → 5月19日(木)

18:00～ 三八波「夢ごてん」

○5月ロータリーレート

1 \$ = 110 円

### 8. 委員会報告

○社会奉仕委員会 委員長 大江 久夫 君

5月15日(日) たんぽぽの会との交流会、よろしくお願ひします。

### 9. 米山奨学金の贈呈

米山記念奨学生 郎 彦昆 君



### 10. 閉会点鐘

次回例会

第1874回 平成28年5月16日(月)

12:30～ 海南商工会議所4F

ゲスト卓話

税理士法人TAS 今中 健三 様



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長 阪口 洋一 幹事 横出 廣 SAA:千賀 知起



## ニコニコ・BOX

- 総田 さよ志 君 テレビで 5 分ばかりでしたが、カットされず放送されました。GW は、ウハウハでした。(笑)
- 寺下 卓 君 ロータリーの友の 5 月号にフィリピン支援の記事が掲載されました。
- 宮田 敬之佑 君 千賀 知起 君 総田さんの番組を見ました。良かったです。

## Rotary NEWS

### 難民危機と向き合う

昨年、シリア、イラク、アフガニスタンからヨーロッパに流れ込んだ難民は 100 万人以上。そのほとんどは危険なゴムボートでトルコからエーゲ海を渡ってギリシャに上陸し、そこから北上して(しばしば徒歩で)バルカン半島の険しい山を越え、1,000 マイル以上離れたドイツへと向かいます。クルド系シリア人、ムハンマド・マラー・ハムザさん



(26) も、2014 年下旬にこのルートでヨーロッパに逃れた一人です。苦難の末、オーストリアの美しい町にたどり着いたマラー・ハムザさんは、地元ロータリークラブの援助の下、新たな生活をスタートさせました。現在は自分と同じ境遇の難民の支援に当たっています。

オーストリア南東部シュタイアーマルク州の小さな町、フェルトバッハ。白ワインとパンプキンシードオイルの産地として有名なこの町は、人口わずか 5,000 人程度、中東の混乱とはかけ離れた静かな町です。学校と教会はこぎれいで、銀行と薬局はぴかぴか。騒音といえば自転車のベルくらい。この町に現在、約 150 人の難民が暮らしています。

難民危機が起こる以前、フェルトバッハのロータリークラブといえば、地元学生の奨学金を募るために毎年開いていたクリスマスコンサートで知られていました。しかし、オーストリアが近年抱えてきた難民問題に深く関心をもつようになりました。そして、町にやってきた難民が生活にじめるよう、募金や物資を集め支援する活動を始めました。「衣服、食糧、パソコン、テレビ、中古自転車などを提供しました。また、クラブ会員である医者や弁護士も紹介しました」

昨年の後期、日に 6,000 人とも言われる莫大な数の難民が欧州になだれ込み、オーストリアでは、欧州連合(EU)の難民受け入れ政策に対する大規模な反対運動が起きました。意見調査では、難民の受け入れに

ついて国民の意見が大きく二分していることが明らかになりました。調査会社 GfK-Austria が 10 月に行った調査では、国民の 49%が、国境警備を厳しくして難民流入のペースを遅らせるか、完全に防ぐべきだと考えていることが分かりました。

このような懸念や脅威の高まりを受け、フェルトバッハクラブの会員は、物資や支援の提供にとどまらず、一般市民に対する情報提供も始めました。会員であるマンフレッド・クラスニツァーさんは次のように話します。「ロータリー会員は、この町のオピニオンメーカーです。現実に何が起きているのかを市民が知れば、現状を違う目で見るようになります」

難民支援は「長い目で見ることが必要」とクラスニツァーさん。「まず、ドイツ語を学んでもらう必要があります。次に、難民たちのスキルを調べ、それを生かした仕事ができるよう、人脈づくりを支援してあげることが大切です」

フェルトバッハのロータリアンたちは、新たにやつて来る難民たちを町が支援していることを示すために、近くにあるルネッサンス建築のコルンベルグ城の元狩猟小屋を、難民の仮住まいとして提供することにしました。この城は、伯爵の称号をもつ地元ロータリアン、アンドレアス・フォン・バルドーさん一家が所有する建物です。ロータリアンによる支援活動は、地元のほかの人びとにも刺激を与えました。例えば、地元高校では難民の子どもたちのための授業を開始。この活動にフェルトバッハクラブは直接かかわっていませんが、皆が顔見知りである小さな町では、誰もが助け合うのが常です。

オーストリアの法律では、法的に身分が保証されていない限り、学校に通学できません。何千人という難民の子どもは、その多くに親がおらず、この法律のために教育を受けられない状況にあります。最近改築を行ったばかりの学校では、使われていない教室で難民生徒への授業を行っています。

第一次世界大戦以来、難民を支援しているローマカトリック教会系の慈善団体、Caritas Austria のボランティアたちが教える授業に、最近ヨーロッパにやつてきた 20 人の高校生が通っています。いずれも親なしで逃れてきた生徒たちです。その多くはすらすらとドイツ語を学んでいますが、最大の問題は出身国による教育レベルの違いだと言います。「シリアから来た学生の多くは中等教育を受けていますが、アフガニスタンからの生徒の中には学校に通ったことのない子もいます」

コルンベルグ城に到着したばかりの 2 家族に会いました。一方の家族はシリアから、他方はアフガニスタンから逃れてきた家族です。ロッジには、新しい電化製品、ベッド、家具などが新調され、最高 8 家族まで住めます。当面はバルドーさんが費用を負担しますが、難民の数と滞在期間に応じて、後に州政府から給付される手はずとなっています。

**5月は青少年奉仕月間です**